

日本財団就労支援フォーラム(2020年8月26日)

ICT活用による定着支援

医療機関の障害者雇用ネットワーク 代表
精神保健福祉士

依田晶男

ICT活用の遠隔支援ニーズが高まる背景

ア. 定着支援ニーズの増大

- ・新規雇用の半数近くを占める精神障害者（発達障害者を含む）では、定着が課題（支援ニーズの長期化）

イ. 効率的な支援体制が急務

- ・定着支援のニーズが増大する中で、限られた支援スタッフが関わることには限界

ウ. 非接触型の支援ニーズの発生

- ・新型コロナウイルスの影響で、在職障害者や事業所の担当者との面談に制限

エ. ICT利用の普及

- ・新型コロナウイルスへの対応を契機に、事業所側もICTを積極的に業務に活用する姿勢に転換

新型コロナウイルス感染症を踏まえた障害者雇用関係の取り組み (令和2年度第2次補正予算等)

電話・遠隔相談の実施

- [ハローワーク、地域障害者職業センター及び障害者就業・生活支援センター](#)において、[電話による相談対応](#)等、できる限り来所を求めない柔軟な対応を推進。
 - [第2次補正予算](#)に基づき、ハローワークにおけるリモートによる相談の試行実施（[タブレット等の導入](#)）。
 - [障害者雇用安定助成金（障害者職場適応援助コース）](#)において、緊急事態宣言中（※）に、ジョブコーチ（職場適応援助者）が職場を訪問して直接支援できない場合については、[ICT等を活用した顔が見えるような支援形式による遠隔相談](#)も助成対象とした。
- ※ 緊急事態宣言後も当分の間、助成対象とすることとしている。

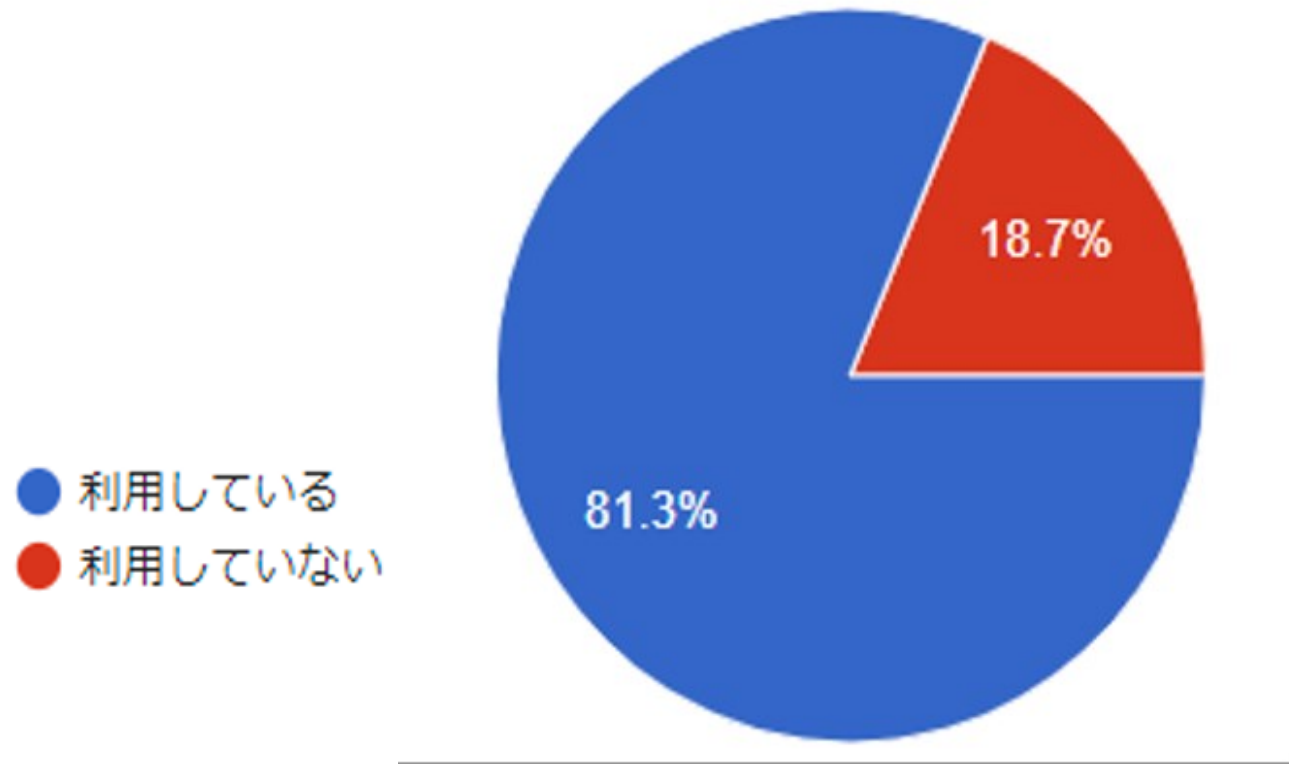
障害者就業・生活支援センターにおける遠隔・対面相談の環境整備の充実

- [第2次補正予算](#)に基づき、以下を実施。
 - ① 障害者就業・生活支援センターにおけるリモート面談、Web会議、職員の在宅からの支援を実施するための[ポータブル機器、Wi-Fi環境の導入](#)等
 - ② 障害特性や個別の事情により対面相談を希望する利用者のための[衛生環境の整備](#)

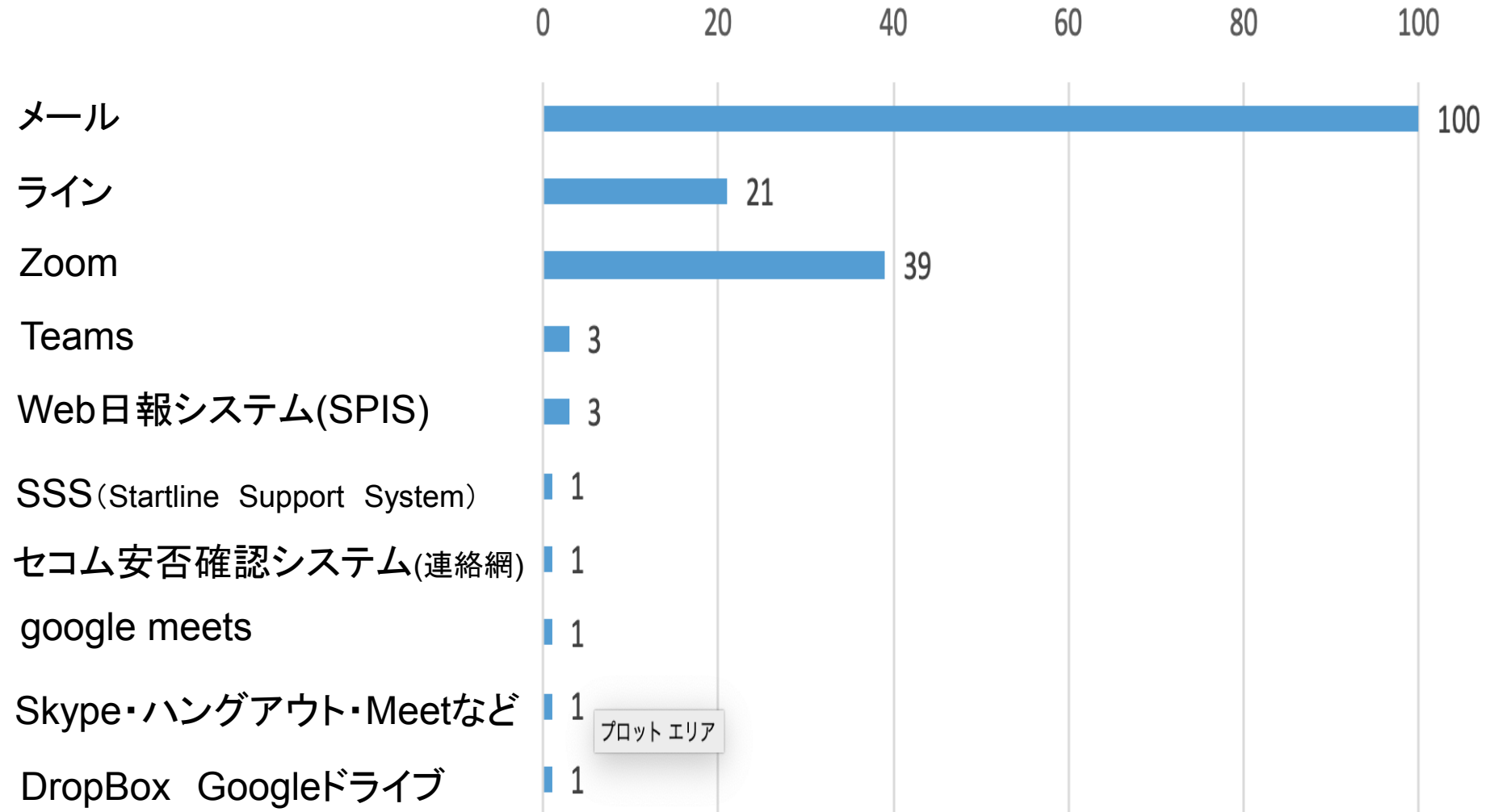
※ 事業主に対して、障害者雇用納付金の申告・納付の期限延長及び納付猶予、並びに障害者雇用調整金及び在宅就業障害者特例調整金の申請に係る特例措置、並びに報奨金等の支給前倒し措置を実施。

ICTアンケート調査(2020年7月) (全国就労支援ネットワーク)

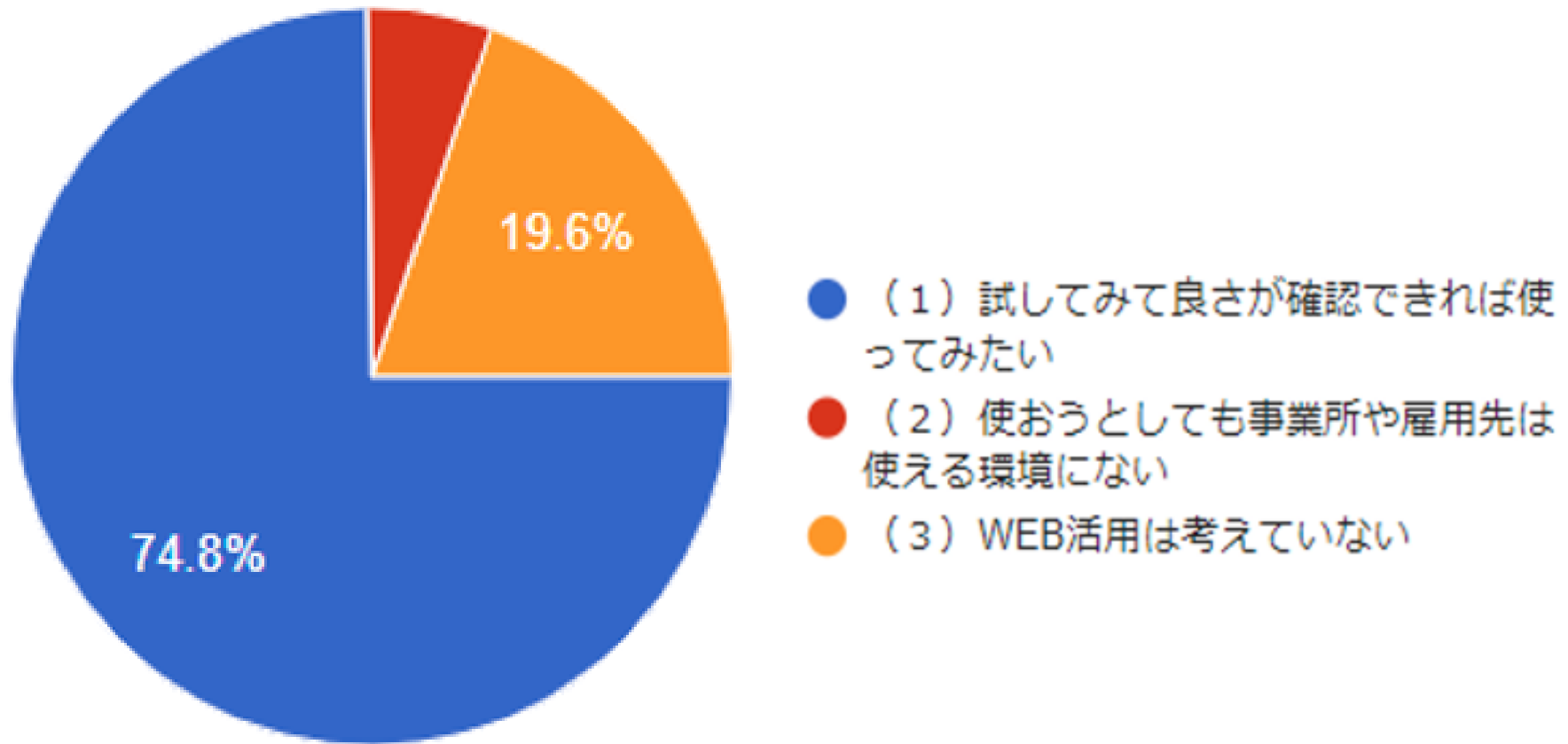
問1 現在、貴事業所では利用者や事業所との連絡にICTを活用していますか(107件の回答)



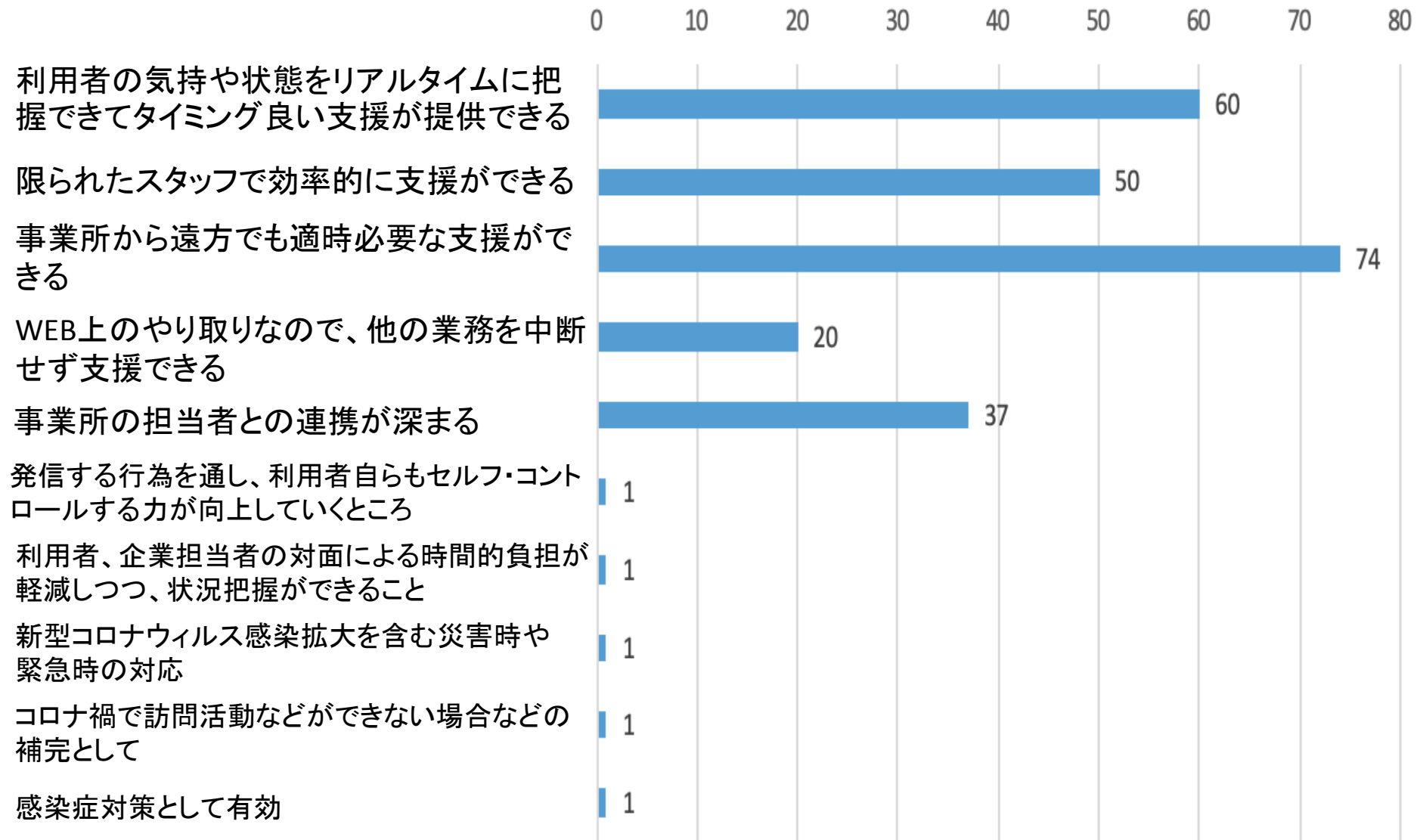
問2 現在、貴事業所で利用者や職場との連絡に利用しているICTはありますか(該当するものすべて) 102件の回答



問3 事業所にいながらWEBを活用して利用者の毎日の状況を
職場の担当者とともに把握できるシステムがあれば、使っ
てみたいと思いますか 107件の回答



問4 このようなシステムのメリットとして何に着目しますか(該当するものすべて) 86件の回答

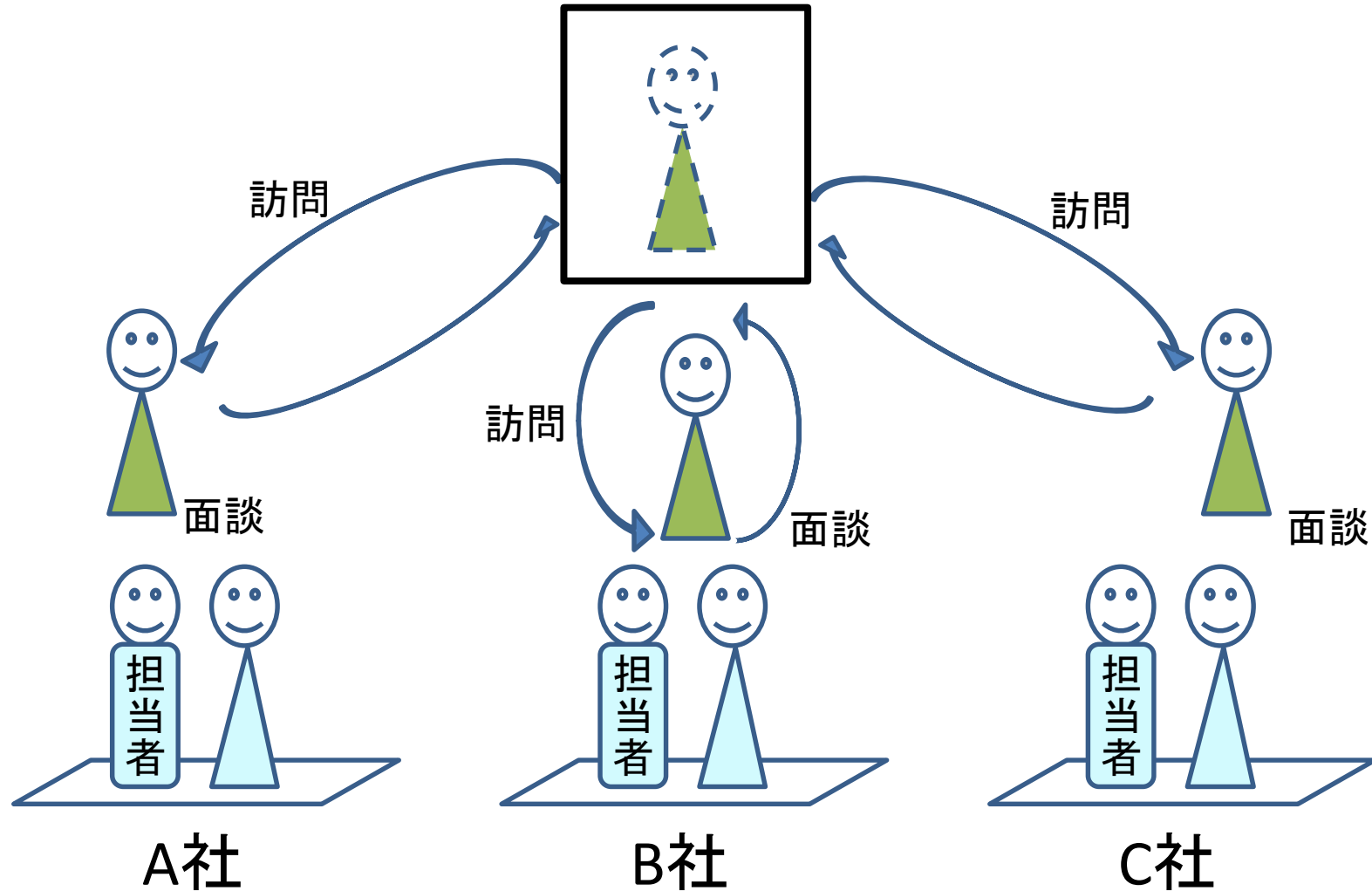


利用する際の課題等(主な意見)

- 1 訪問(リアル面談)の良さが失われるのではないか
(表情から分かること、職場の雰囲気、同僚等からの情報等)
- 2 支援機関の負担が大きいのではないか
(閲覧やコメントの記載、支援機関の利用者の多さ、休日や時間外の対応等)
- 3 支援機関への依存が強まるのではないか
(職場で解決しなくなる、過度な支援要請を招く等)
- 4 利用できる者が限られるのではないか
(ITを使えない者、管理されることを嫌う者等)
- 5 個人情報扱うことで問題が生じないか
(情報漏洩、システムのセキュリティ等)
- 6 システム導入に伴う経済的な負担が大きいのではないか
(機器購入費(PC、スマホ)、通信費、システム利用料等)

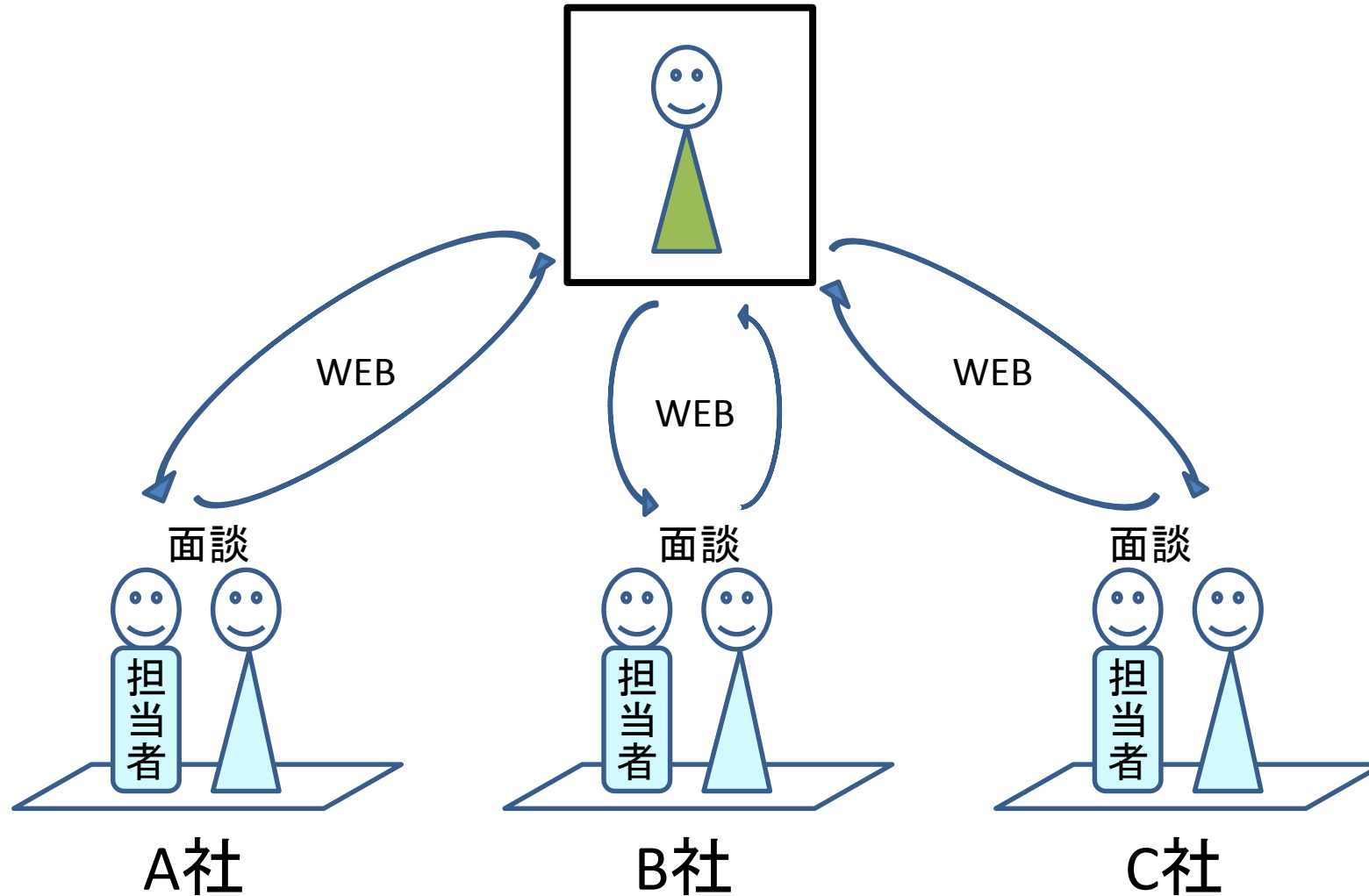
従来の支援（訪問型）

障害者就業・生活支援センター
（就労移行支援事業所）

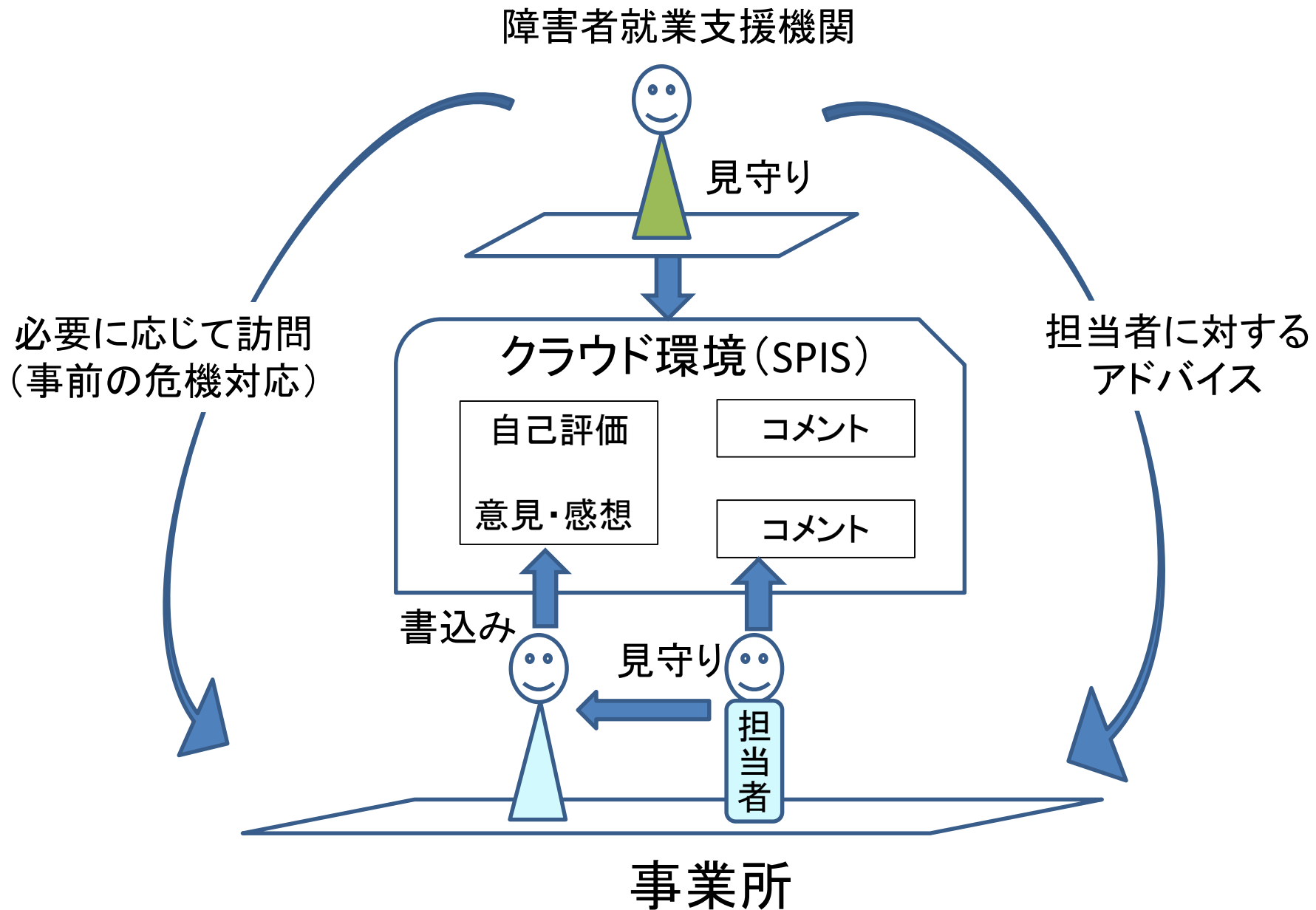


ICTを活用した支援（ZOOM型）

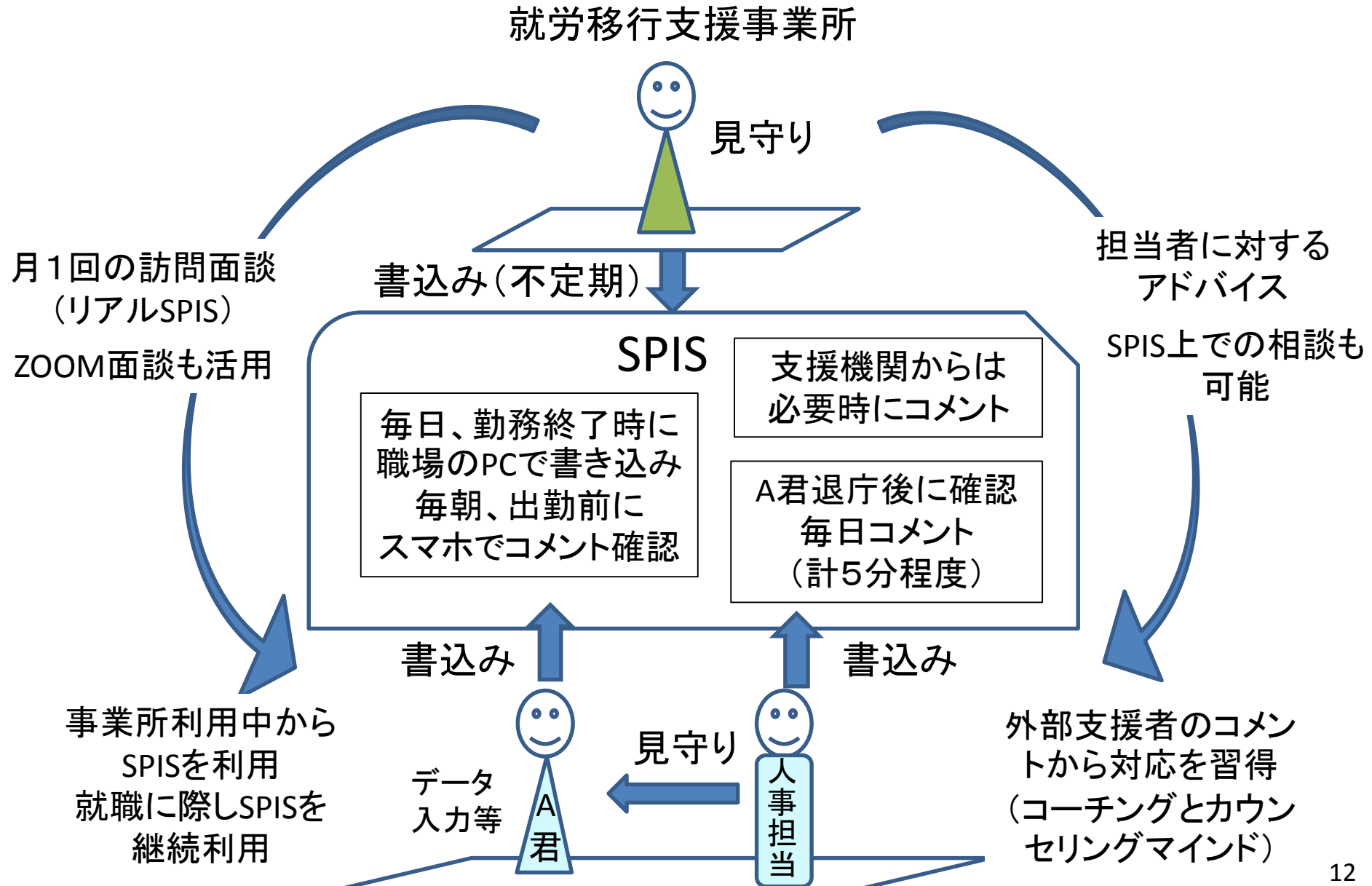
障害者就業・生活支援センター
（就労移行支援事業所）



ICTを活用した支援（クラウド型）



活用事例(健康保険組合)





SPIS簡易説明



有限会社 奥進システム 代表取締役

奥脇 学



SPIS開発の経緯

2012年とあるセミナーで、「精神障がいの方は突然調子を崩したりするので、長期就労は難しい」という同意が多くあったことにショックを受け、自分たちの取り組みを汎化するために開発しました。



エスピス

SPiS
Supporting People to Improve Stability

精神障害者雇用の配慮のポイントを考え、それをきっかけに
配慮できる環境を熟成するため、自社開発したシステムです。

SPISのホームページはこちらです <https://www.spis.jp/>



Okushin System, Ltd.

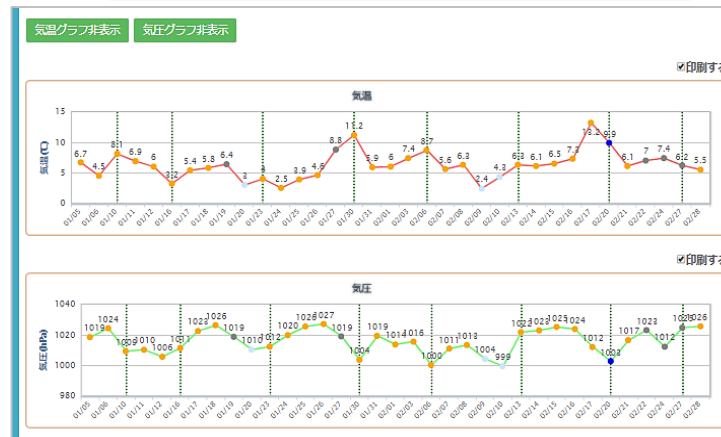
SPiSとは？

就労定着支援システム「SPiS(エスピス)」は、精神・発達障がいを持つ方やメンタル不調の方向けの雇用管理システムです。個人の特性に合わせて評価項目を設定できる日報形式のシステムになっており、働く当事者それぞれの個性に合わせて項目設定した日報を、関係者間で共有します。

- ① 体調面、精神面の状態を日々、簡単なフォームの日報に入力します

ジャンル	評価項目	評価
生活面	しんどさ	1 2 3 4
社会面	関係員会	1 2 3 4
社会面	不安感	1 2 3 4
社会面	繰り返しの繰り返し	1 2 3 4

- ② 自己評価点の推移は、グラフ表示機能によって簡単に「見える化」できます。



- ③ 自由記載のコメント欄で日々のできごとや感情を共有します。



これまでの効果

「SPIS(エスピス)」を利用した方の感想を一部抜粋しました。

	職場の人 	利用者(本人) 	外部支援者 
自己評価項目のチェックについて	● どんな業務をどれ位するとどんな症状が現れるか、一目瞭然になるのでとても便利です。 ● 文章表現が苦手な人でも項目のチェックはできるので、状況把握ができて安心です。	● 自分の体調や生活リズムについて、日々考えることができるようになりました。 ● 自分のウィークポイントを認識して、意識して改善することができました。	● 毎日顔を合わさなくても、その人の状態の変化に気づくことができます。 ● 睡眠や服薬の状況がわかることが支援の参考になっています。
自由記載のコメント欄について	● コミュニケーションが取れていたつもりでも、コメント欄の書き込みで初めて知ることがあります。 ● 不調の前兆を掴んで、業務の調整ができています。	● 日々のコメント記入が心のはけ口になり、ストレスの分散になります。 ● 口に出して言えない気持ちや苦しさを知ってもらえます。	● 本人だけでなく職場の人からのコメントもあるので、本人の状況をより客観的に理解することができます。

職場内の配慮(ラインケア)

セルフケア

外部連携



Okushin System, Ltd.

これまでの実績

「SPIS(エスピス)」は、様々な企業・団体に導入されています。

- 内閣官房 内閣人事局
- 株式会社 島津製作所
- 全国土木建築国民健康保険組合
- 株式会社ドコモ・プラスハーティ
- NTT情報ネットワーク総合研究所
- NTTファイナンス 株式会社
- 株式会社 電通そらり
- 株式会社 ベネッセビジネスメイト
- シャープ特選工業 株式会社
- MCSハートフル 株式会社
- コクヨKハート 株式会社
- 社会福祉法人 太陽の家
- 自立就労支援センターいしびき
- 株式会社 新・栄
- 有限会社 まるみ
- 特定非営利活動法人 かながわ精神障がい者
就労支援事業所の会
就労継続支援B型事業所”ホープ大和”
- 有限会社 奥進システム
- NPO法人 大阪精神障害者雇用支援ネットワーク
(JSN)

